

平成24年度 がん患者・家族支援推進事業評価

計画	評価
<p>【1】がん患者・家族支援推進事業としてがん患者・家族総合支援センター(仮称)の設立に向けてソフト・ハード面から調査・環境整備を行う。</p>	<p>・上半期より継続して、医療関係者に対する本事業の趣旨説明や意見募集について、講演会やがん診療連携協議会のメールを通じて実施した。 ・上記実施の反響としての意見はほとんどないという状況を踏まえ、主旨が十分伝えきれていない可能性が考えられる。</p>
<p>a. がん患者家族、地域の医療機関等への効果的な支援を行うため、四国がんセンターおよび県内の医療関係者・県民を対象にがん患者・家族支援等に関するニーズ調査/アイデア収集のためのアンケート/ヒアリングを行う。</p>	<p>・以上をふまえて25年度は、本項目の継続するとともに、下位項目として「一般市民および医療関係者ともに、具体的な案件に基づき、意見が収集できるような調査を実施する」を追加する</p>
<p>b. がん患者・家族総合支援センター運営のための備品、書籍等の整備。</p>	<p>・慶応義塾大学の図書館情報学の教授の調整の元、患者家族総合支援センターと愛媛県立図書館との連携のあり方について検討した。 ・検討の結果、患者家族総合支援センターの図書に関して、選書、管理、運営等についてアドバイスを受けながら実施できた。 ・今後の運営においても、当センター側の管理運営のみならず、図書館側のがん医療情報提供体制の整備や、がんサロン運営などの可能性が新たな課題として明確化された。 ・患者家族総合支援センターの2階フロアについては、患者家族の集いのスペースであることから、病院とは異なる癒し空間となるようインテリアコーディネーターを導入し、環境整備を行った。 ・今後は備品の整備のみならず、患者家族総合支援センターの建物内での具体的な運営について、検討していく必要がある。</p> <p>・以上をふまえて25年度は、本項目を一旦終了とし、修正継続および新規項目として以下3点を追加する 「患者家族総合支援センター内の患者家族用フロアの運営整備を行う」 「患者家族総合支援センター内の地域医療関係者用フロアの運営整備を行う」 「愛媛県内のがん情報発信機能等における医療機関と公共図書館との連携体制を構築する」</p>
<p>c. 全国の医療者向け研修会、ピアサポーター養成研修会、医療連携・医療情報交換等先進的な取り組みをしている施設等に当院の調査員を派遣し、情報収集を行う。</p>	<p>・情報収集活動の成果をふまえて、本項目の継続に加えて、以下の点について、25年度の新規項目を追加する。 ・ピアサポーターやボランティアなど、一般の様々な立場の人々の力を活用していく方法のひとつとして、ボランティアコーディネーター機能が有用であることがわかった。25年度のサロン活動に関連する下位項目として、ボランティアコーディネーター育成を追加する ・がんに伴ういらい、化学療法による皮膚や爪の色素沈着、脱毛というような外見の変化に対する支援は、生活者であるがん患者のQOL向上に重要であることがわかった。24年度、外見関連支援に関する研修を調査員により企画し、参加者から今後の普及啓発活動の継続の強い要望があった。25年度新規項目として、「愛媛県内のがんに関する外見関連支援について、愛媛県内への普及啓発活動を行う」を追加する ・がん治療の向上等により、がんは長く付き合う慢性疾患としてとらえる必要があることから、がん患者が生活する上での就労問題は患者の経済的支えのみならず、自ららしく生きる上でのQOL向上に重要であることがわかった。24年度、就労支援に関する研修を調査員により企画し、参加者から今後の普及啓発活動の継続の強い要望があった。25年度新規項目として、「がんに関する就労支援について愛媛県内への普及啓発および支援体制を構築する」を追加する ・日本緩和医療学会が提供しているエンド・オブ・ライフ・ケア (EOLケア) や緩和ケアを提供する看護師に必須とされる能力修得のための系統的な教育プログラムの日本語版は、がん患者や家族のQOL向上に有効であることがわかった。今後は、がん看護実践に強い看護師育成研修事業や愛媛県看護協会等、愛媛県内にすでに実績のある資源等との連携を視野に入れて本プログラムの実行可能性について検討することとし、25年度新規項目として、「愛媛県看護協会等、愛媛県内にすでに実績のある資源等との連携を視野に入れて、愛媛県内のがん看護研修企画について検討する」を追加する ・尚、24年度の活動を通じ外見関連支援や就労支援等、がん関連の企画としてすでに必要と判断された項目は、患者家族支援および地域医療者支援の枠組みに整理し計画するが、常に世の中の動向を把握しながら必要と判断されるがん関連の企画は、【3】a.b.の評価も踏まえ、愛媛県がん診療連携協議会他、愛媛県内の関連機関と協力しながら、随時主催することとする</p> <p>・以上を踏まえ25年度は、新規項目とし「愛媛県がん診療連携協議会他、愛媛県内の関連機関と協力しながら、愛媛県内へ普及が啓発が必要ながん関連の企画を実施する」を患者家族支援および地域医療者支援に追加する</p>
<p>d. がん関連の研修や講演会等の情報を集約し、インターネット等を利用した情報提供を行う。</p>	<p>・愛媛県内のがん情報集約については、その具体的な方策を見出すことができていない。 ・愛媛県内へのがん情報発信については、下半期の取り組みとして、医療機関のみならず、広く保健所や学校関係者への広報活動を展開する方法について、愛媛県医療対策課のがん担当者と打ち合わせを行うことができた。 ・がん情報集約とがん情報発信では、それぞれに対象と方策が異なるため、別々の項目として計画する必要がある。 ・さらに、がん情報発信では、対象が一般市民の場合と、医療関係者等の場合とでは、構築する体制が異なると考えられる。</p> <p>・以上をふまえて25年度は、本項目について、がん情報集約とがん情報発信という2つの項目で、修正継続とする</p> <p>・【がん情報集約】 「愛媛県内のがん関連企画を広報するために、がん診療連携拠点病院等のがん関連企画を収集する方法を検討する」</p> <p>・【がん情報発信】 「愛媛県民へ広くがん情報を発信するための体制を整備する」 「愛媛県内のがん患者・家族を支援する人材(病院医療関係者、在宅医療関係者、ヘルパー、教育関係者、保健関係者、各種相談窓口等)に対するがん情報発信体制を整備する。」</p>
<p>e. 患者家族支援の業務・地域医療者支援の業務を明文化する。</p>	<p>・24年度において本事業は、患者家族支援/地域医療者支援という2つを基盤として整備を進めた。具体的な方法としては、患者家族総合支援センターが主催するまたは、他の企画に協力するという2通りの方法で整理し、今後も本枠組みで全体整備を進めていくことが妥当と評価する。</p> <p>・以上を踏まえ25年度は、本事業が引き続き患者家族支援/地域医療者支援という2つを基盤とすることとし、一項目の表示としては終了する。</p>
<p>f. がん患者・家族への総合的な支援のあり方について将来展望を提言する。</p>	<p>・本項目については、23-25年度の事業評価全体を通じて、提言することとし、25年度事業計画からは一旦削除する</p>

計画	評価
【2】患者家族支援の事業展開	
<p>a. 県内のがん患者サロンへの支援 県内のがん患者サロンの現状把握、運営支援をおこなうことで、がん患者サロンの質が担保され、がん患者、家族に対しより質の高い支援を行うことができる</p> <p>1 県内のがん患者サロンの設置、運営の支援を行うため、四国がんセンター内のがん患者サロン（ひまわりサロン）を基盤として、がん患者サロンにおけるピアサポーターおよび運営スタッフ等を含め、サロン運営マニュアルを作成し、県内の医療機関等へ提供する。</p> <p>1) H23年度にひまわりサロンに派遣されたピアサポーターを評価し、ひまわりサロンのピアサポーターとして登録する。 2) ひまわりサロン運営規程およびピアサポーター規定を作成する。 3) ひまわりサロンの運営に参加し、サロン運営マニュアルを作成する。 4) 作成したマニュアルを県内の医療機関などに提供し、県内のがん患者サロン運営の支援を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・愛媛県内のがん診療連携拠点病院等が主催するがんサロンの情報収集をすべて完了した。この活動を通じた担当者との関係性の構築を基盤に、愛媛県におけるがんサロン担当者の交流・検討会を企画/実施することができた。また、本事業で作成したサロン運営マニュアル等は愛媛県内のがん診療連携拠点病院等のサロン担当者に情報提供し、要望があった5施設に資料提供を行った。サロン担当者からは、このような企画や愛媛県内のサロンを統括するような事務局機能を当院が果たすことが求められており、今後の県内がんサロンの現状把握、質の向上に必要な情報提供等の役割を担うことが必要であると評価する ・厚生労働省のがん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定事業によるがんピアサポーター研修プログラムを用いた研修を愛媛県として初めて企画するにあたり、主催となったおれんじの会をプログラム全体の構成、講師の選定、調整、ファシリテータなどとして支援することができた。今後も愛媛県のがんサロンの質の向上のためには、ピアサポーターに関連する支援は必要である。さらに愛媛県内のサロン担当者に、ピアサポーター派遣事業の内容について情報提供を実施したことにより、愛媛県全体の事業の円滑な活用が促進することにつながったと評価する。 ・がんサロンにおける全国の動きに関する情報収集として、島根、愛知、福岡のがんサロン研修・セミナーに参加した。がんサロンに伴う事務局機能を専任部署が担うことに対し、全国のサロン担当者から高い関心が寄せられ、問い合わせ対応や資料提供を行った。今後もこのような全国に先駆けた事務局機能の整備を勧め、愛媛県内外に対する情報発信の要望に対応する必要があると評価する。 ・本項目にある「がんサロンへの支援」は、がんサロンの質向上のための一方法の提示にとどまるため、今後は項目としての文言修正が必要である ・以上をふまえて25年度は、本項目について、「愛媛県内のがんサロンの質向上に努める」を修正継続とする。
<p>2 県内のがん診療連携拠点病院（以下、拠点病院）、がん診療連携推進病院（以下、準拠点病院）等が実施するがんサロンの見学および、運営スタッフからのアンケート/ヒアリングを実施し、愛媛県内のがんサロンの現状およびサロン運営におけるニーズを明らかにする。</p>	<p>【2】a.1の評価に集約</p>
<p>b. がん患者を家族に持つ子どもの不安や恐怖、緊張を緩和するとともに、家族のコミュニケーションの円滑化を図り、がん患者自身の負担軽減にもつなげることを目的として、がん患者を家族に持つ子どものケアのためのイベントを実施する。</p> <p>また、イベントの評価を行い、他の医療機関等でも実施可能なプログラムの構築を検討する。</p> <p>1) がん患者を家族に持つ子どもを対象とし、院内において、がんに関する勉強会、院内見学会などのイベントを実施する。</p> <p>2) 1) の実施を踏まえ、夏休みキッズイベントの企画評価に関する研究計画書を作成し、他の医療機関等でも実施可能なプログラムの構築を検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・下半期、キッズ探検隊を春休み企画として実施することを検討したが、今後につなげるために今年度は1回の開催とし、夏休みに実施した企画を慎重に評価することとした。 ・本企画に関する学会報告を行った。日本サイコオンコロジー学会においては、ベストポスター賞を獲得したり、資料提供を要望がある等、全国から高い関心を寄せられ、資料提供による国内への情報発信を行った。 ・今回のキッズ探検隊は、子どもに対する心理教育プログラムとして構築できた。このプログラムを愛媛県内へバリエーションとして普及させることも検討した。がんに関連する子どもへの支援の必要性自体が認識され始めた段階に過ぎないため、プログラム提供による実行というよりは、がん診療連携拠点病院のスタッフを中心にまず内容を理解することから始めるのが妥当であると考え。 ・以上をふまえて25年度は、本項目の継続するとともに、子どもへの支援の普及促進のために医療関係者を支援する要素を盛り込み、「がん患者を家族に持つ子どもの不安や恐怖、緊張を緩和するとともに、家族のコミュニケーションの円滑化を図り、がん患者自身の負担軽減にもつなげることを目的として、がん患者を家族に持つ子どもへの支援を促進させるための企画を行う」を修正継続とする
<p>c. 各患者会への支援 現在四国がんセンターにおいて実施している患者支援企画（患者同士の交流会）の現状把握、課題抽出などの評価を行うことにより、患者・家族の支援体制の強化に向けた検討を行う。</p> <p>1) 乳がん患者会（かにさんの会）や婦人科患者会（トトロの会）等、複数ある患者支援企画の見学/運営担当者等からのヒアリング等を実施し、現状および課題を明らかにする。</p> <p>2) 1) の現状および課題に基づき、各会を整理する</p> <p>3) 関係者による検討会議を企画、開催し、本事業として積極的に支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カツラ&マンマ製品展示会については、四国がんセンターの内部の部門が担当していたが、今回の支援を契機とし、愛媛県内に資源の少ない案件であるため、県内に広く提供が必要であるものと評価し、患者家族総合支援センターが主催する企画とした。これらの業者は、愛媛県内の支店がほとんどないため、今後も愛媛県内に広く情報提供をするための企画が継続的に必要である。 ・院内病棟で企画されていた乳がんや婦人科がん患者の集まり、公開セミナー等の情報収集から、院内の患者支援企画は、【講義による知識獲得】【当事者との出会い語りあい】の2つの要素に整理できると考えられる。さらに【当事者との出会い語りあい】については、【語り合い】【学習】【体験】という3つの要素に分けて整理することができると考えられる。【講義による知識獲得】を企画する場合は、病棟では疾患ベース、緩和ケアや福祉制度等、疾患に限定されない共通性の高い事項を公開セミナーや患者家族総合支援センターが担当するという整理の方向性を院内に向け提案した。 ・【講義による知識獲得】【学習】【体験】は、公開セミナーとしてのセミナー/イベントに整理することができると考える。 ・【語り合い】は、患者家族総合支援センターのサロンスペースのがん種別の語り合いの場として企画を検討することとする ・以上をふまえて25年度は、院内整理の方向性の提案という目標達成につき本項目は終了とする。 ・カツラ&マンマ製品展示会は、患者家族総合支援センターの展示スペースの企画として継続し、25年度計画「愛媛県内のがんに関する外見関連支援について、愛媛県内への普及啓発活動を行う」に集約して計画する ・【当事者との出会い語りあい】は、患者家族総合支援センターのサロンスペースの企画とし、25年度計画「愛媛県内のがんサロンの質向上に努める」に集約して計画する。

計画	評価
【3】地域医療者支援の事業展開	
<p>a. 現在四国がんセンターで実施している地域医療従事者向けの研修の評価等を行い、より効果的、効率的な研修の実施のための基盤整備を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・四国がんセンターで実施している地域医療従事者向けの研修において、毎年継続的に実施しているものについては、運営業務をチェックリストにより可視化し、役割分担をしながら実施できるよう体制整備が行えた。 ・公開セミナーに関する医療者へのアンケート調査を実施した。その結果に基づき25年度医療者向け研修を計画することとする ・単発的に実施されるものについては、主催者が作成する企画書案に基づき、その思いや意図を十分にヒアリングしながら、双方の意向を踏合せの上、患者家族総合支援センターとして最終の企画書を完成させ、運営協力をするという体制を整備した。 ・以上を踏まえ、25年度は、がん関連で必要と思われる内容については、随時主催することとし、新規項目として、「愛媛県がん診療連携協議会他、愛媛県内の関連機関と協力しながら、愛媛県内へ普及啓発が必要ながん関連の企画を行う」を患者家族支援および地域医療者支援に追加する
<p>b. 地域医療者に対する研修を実施するほか、地域医療連携の中核的存在でもある拠点病院・準拠点病院等の医療従事者の能力の向上のために、愛媛県がん診療連携協議会と協力し、拠点病院、準拠点病院等の医療者を対象とした研修会を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本項目の評価は【3】aにまとめる
<p>c. 拠点病院、準拠点病院等が上記研修会へ参加する際や、患者・家族、地域医療機関支援のための研修、企画を行う際の費用面の支援を行う。 拠点病院・準拠点病院等から患者・家族支援、医療者支援の取り組みを行っている全国的な研修に人材を派遣し、愛媛県内にそのノウハウを還元する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人材派遣の成果については、派遣された個人としては短期的な成果がみられた。愛媛県内への還元については、長期的な成果としてみていく必要があると評価する。今後は、外見関連支援や就労支援等、24年度の本事業の成果として愛媛県内への普及啓発が必要であると判断されたものは継続的に出張助成することにより、より効果的な愛媛県内への還元が可能であると考ええる。 ・研修助成成果は、直後の報告書のみとなっているため、伝達講習の実施や還元計画の立案、その後の成果の報告、還元可能性の人材派遣者の査定等を含め、愛媛県内への還元の方法について検討する必要がある。 ・地域療養情報や相談支援関連等では、出張助成を受けた人々を中心に地域療養情報作成や相談支援の研修会企画等の具体的還元が実施されている。 ・今後の課題として、研修助成の情報発信としてがん診療連携拠点病院のメーリングリストを中心に行ったため、情報を受け取る側の環境により情報提供に大きな漏りがでてしまう状況があった。 ・以上を踏まえ、25年度の取り組みとしては、本項目の「拠点病院・準拠点病院等から患者・家族支援、医療者支援の取り組みを行っている全国的な研修に人材を派遣し、愛媛県内にそのノウハウを還元する。」について継続とするとともに、下位項目として「派遣する人材の選定を含め、研修助成成果を愛媛県内へ効果的に還元するための方法について、戦略的に計画する」を追加する
<p>d. 愛媛県のがん登録を支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・下記の評価を踏まえ、25年度は本項目を継続する
<p>1. 『院内がん登録初級者研修会』を企画し、がん診療拠点病院・がん診療準拠点病院の院内がん登録の質と登録数の向上を目指す</p>	<p>がん登録実務者初級研修会を計10回行い、その評価を行った。参加した初級者の能力向上が見られた。企画・講師・参加者共にモチベーションが高かった。この研修会は県外でも評価が高く、『愛媛スタイル』として確立したと思われる。</p>
<p>2. 『腫瘍登録票の広報・講習会・出張探録』を行い、非拠点病院・診療所からの腫瘍登録票の質と量の向上を目指す。</p>	<p>腫瘍登録票ヘルプデスク設立に向けて、準備・広報を行った。来年度行う、非拠点病院へのがん登録研修の準備を行った。</p>
<p>3. 1、2により、地域がん登録の精度を向上を目指す。</p>	
<p>4. 院内がん登録、地域がん登録の精度を検討する。</p>	<p>院内がん登録数・地域がん登録数などを協議会で報告した。院内がん登録に関しては、単に『数』の精度ではなく、施設のがんの医療の質を知るために使えるかどうかを評価する体制が整った。来年度地域がん登録報告書作成のためのタイムテーブルを作成した。</p>
<p>5. 『院内がん登録情報解析研修会』を企画し、院内がん登録情報の利用を促進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分科会等との調整で大発表会の日程が4月に延期された事以外は、今年度は予定通り研修会を実施できた。成果として、4月に県外からの参加者も交え大発表会を予定、統計資料として「がん登録でみる愛媛県のがん診療 2011年院内がん登録より」を発行予定である。 ・25年度は昨年12月に実施したニーズ調査を踏まえ研修会の内容を企画、また、各施設の担当者の関連学会での発表の支援等も行う予定である。
<p>6. 『愛媛県がん情報利用プロジェクト（研究会）』を企画し、地域がん登録・院内がん登録・DPCデータ・がん検診情報・保険情報など様々な情報を統合したがん情報の利用解析の場を作る。</p>	<p>今年度は、地域がん登録情報利用制度の策定、プロジェクトの発足準備を行った。『5. 『院内がん登録情報解析研修会』も、プロジェクト関連企画であり、順調にスタートした。年度末に、愛媛県地域がん登録情報利用に関して県の決裁がおりたので、25年度から本格的に始動する。</p>

平成25年度 がん患者・家族支援推進事業評価

計画	上半期評価
【1】 がん患者・家族支援推進事業としてがん患者・家族総合支援センターの設立に向けてソフト・ハード面から調査環境整備を行う	
1. がん患者家族、地域の医療機関等への効果的な支援を行うため、四国がんセンターおよび県内の医療関係者・県民を対象にがん患者・家族支援等に関するニーズ調査/アイデア収集のためのアンケート/ヒアリングを行う	<ul style="list-style-type: none"> ・6月25日患者・家族総合支援センター設立に伴い、患者・家族総合支援運営委員会を院内組織として正式に立ち上げ、当該委員会の決議内容の会議録の決裁とともに院長まで報告する体制を整備した(隔週水曜日13:00~13:30)。また、各フロアの運営について、マニュアル化をすすめており、今後の職員の増員や交代を視野に入れた長期的な運営の基盤整備を行っている。
1) 一般市民および医療関係者ともに、具体的な案件に基づき、意見が収集できるような調査を実施する。(ex: 外来へのアンケート設置)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズを反映するシステムとして、5月27日に患者・家族総合支援センターのホームページ開設し「みんなの声」の投稿ボタンを設置し、6月25日の暖だん開設においては、各所に「みんなの声」として意見やアイデアを書いてもらえるような用紙と投稿BOXを設置した。これらから、利用者ニーズを把握し、企画に反映することができた。 ・がん登録データの活用に関連して、一般市民に対してどのようながんに関連するデータの公開を望むかについてアンケート調査を実施した。結果のひとつとして、「がんに関連して知りたい情報がどこにあるのかわからないと感じた経験の有無」について、患者・家族の半数以上があると回答していたことから、がん情報発信の整備体制整備の課題が明らかとなった。
2. 愛媛県内のがん情報発信機能における医療機関と公共図書館との連携体制を構築する	<ul style="list-style-type: none"> ・愛媛県立図書館との連携のもと、暖だん学びのひろばの書籍の選定、分類、配架についての専門的立場から助言を得た。 ・当センターの企画について、愛媛県立図書館に随時電子データおよびチラシ郵送を届け、図書館のホームページ上での企画広報および図書館内のチラシ設置による広報というシステムが整備できた。 ・11月4日には、愛媛県立図書館主催、本事業共催による「図書館でがんを学ぼう」という一般市民向け企画を予定している。これにより、図書および図書館という場所が、がん情報獲得のための資源であることを、県民に伝える機会になると考える。
3. 全国の医療者向け研修会、ピアサポーター養成研修会、医療連携・医療情報交換等先進的な取り組みをしている施設等に当院の調査員を派遣し、情報収集を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点での当院調査員派遣は、がんと生殖に関連、就労支援関連等、計14件である。この情報収集で得られた知見に基づき、暖だんのフロア整備や就労支援体制整備、企画等を実施している。今後も引き続き、情報収集を行っていく。
4. 【がん情報収集】愛媛県内のがん関連企画を広報するために、がん診療連携拠点病院等のがん関連企画を収集する方法を検討する	<ul style="list-style-type: none"> ・7月27日の愛媛県がん診療連携協議会幹事会において、愛媛県がん診療連携協議会のメーリングリスト上に流された各施設の研修・セミナー等の案内については、その都度担当者への確認不要で患者・家族総合支援センターへ掲載することの了承を得た。これにより、各拠点病院の企画の集約広報システム体制が整備できた。なお、各拠点の企画の中には、文書案内にあるもののメーリングリストに載らないものがある。この点については、公文書で案内されたものについてホームページ掲載の自動的承認を得るかまたは、各施設へメーリングリスト集約を徹底してもらうよう伝える等の方法が必要である。
5. 【がん情報発信】愛媛県内のがん患者・家族を支援する人々(病院医療関係者、在宅医療関係者、ヘルパー、教育関係者、保健関係者、各種相談窓口等)に対するがん情報発信体制を構築する	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点での、情報発信体制として、愛媛県がん診療連携協議会、愛媛県事業担当者、愛媛県立図書館、愛媛労働局、ハローワーク松山、町なかサロン、愛媛県介護福祉士会等を本事業の企画情報発信先としてメールやチラシ郵送などの方で整備している。今後も随時、提携先を拡大する方向とする。 ・県民およびがん患者・家族に対する情報発信体制構築のひとつとして、愛媛県内の20か所の市町村広報紙担当者に連絡をとり、企画についての随時の情報提供や広報紙や市町村のホームページ掲載について協力要請を行っている。現時点では、7か所について広報担当者との協働体制が構築できている。今後も引き続き、協力要請を行っていくこととする。
【2】 患者家族支援の事業展開	
1. 患者家族総合支援センター内の患者家族用フロアの運営整備を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者から紙面およびホームページ上から収集する「みんなの声」に基づき、随時整備を行っている。具体的事項として、学びのひろばにおいてがん以外の読み物の希望に基づき、新聞や愛媛県立図書館からの団体貸出し図書の利用を行う。また、飲み物のサービスや利用者から提供のあった書道色紙の提供など、病院とは異なるがん患者・家族の居場所となるよう、アットホームな雰囲気づくりに配慮している。 ・患者・家族の居場所として、同じがん種などの人々との語りの場の要望があり、サロン整備に反映している(詳細は下記4)。
2. 愛媛県内のがんに関する外見関連支援について、愛媛県内の患者家族および一般市民への普及啓発活動を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・暖だんにウィッグ・マンマ展示室の整備を随時整備している。 ・10/9-10ウィッグマンマ展示会企画を実施し、94名の参加があった。昨年度の企画参加者40名と比較して、参加者数が増加している。しかし利用者からは、「もっと早く知れたかった」等の声があったため、今後も引き続き広報を強化していくこととする。
3. がんに関する就労支援について愛媛県内の患者家族および一般市民への普及啓発および支援体制を構築する	<ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省「長期にわたる治療等が必要な疾病をもつ職者に対する就職支援モデル事業」に関与しながら、毎週水曜日ハローワーク松山の就職支援ナビゲータとの相談支援体制の構築を行っている。上半期では、9名の相談利用があった。就労支援が病院で行われるという取り組み自体は、新しい取り組みであるため、県内への普及啓発を強化していくこととする。 ・地域の企業関係者に対して、就労支援の取り組みに関する広報に出向く活動を実施し、企業側からは協力的な返答を得ることができた。これを契機に、愛媛県内の就労支援体制の整備の充実を図ることとする。
4. 愛媛県内のがんサロンの質向上に努める	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでがん種を問わないがんサロンとして運営してきたひまわりサロンに加えて、がん種や立場等の共通する背景をもつがん患者およびその家族のためのサロンとして「聴いのサロン」の構築を始めた。現時点では、がん種として、乳がん、婦人科がん、大腸がん、胃がんを開設した。 ・従来のひまわりサロンについても、今年度初めて暖だんでの開催にあたり、物や人の配置等のさらなる整備を進めている。
5. がん患者を家族に持つ子どもの不安や恐怖、緊張を緩和するとともに、家族のコミュニケーションの円滑化を図り、がん患者自身の負担軽減にもつなげることを目的として、がん患者を家族に持つ子どもへの支援を促進させるための企画を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、8月夏休みキッズ探検隊を企画実施した。10名の参加があり、実施後アンケートでは子ども、保護者ともに肯定的な評価を得た。

<p>6. 愛媛県がん診療連携協議会他、愛媛県内の関連機関と協力しながら、愛媛県内の患者家族および一般市民への普及啓発が必要ながん関連の企画を行う</p>	
<p>【3】地域医療者支援の事業展開</p>	
<p>1. 患者家族総合支援センター内の地域医療関係者用フロアの運営整備を行う</p>	<p>・上半期の地域医療者利用者数は、計37名。現段階では、平日日中の開館時間のため、就業している地域医療関係者はの利用が困難である。今後は、地域医療関係者の利用拡大のために、夜間や土日の開設に向けた検討が必要である。</p>
<p>2. 愛媛県内のがんに関する外見関連支援について、愛媛県内の医療関係者への普及啓発活動を行う</p>	<p>・暖だんのウィッグ・マンマ展示室の整備を行い、愛媛県がん診療連携協議会総会等の機会を通じながら、医療関係者に対して普及啓発活動を随時実施している。 ・県内施設より、自施設でもウィッグ・マンマ展示に関する整備するにあたり、資料提供、見学その他の支援の要望があった。随時、資料その他の情報提供を実施している。また、このような他施設での整備に関して、当センターが情報提供その他に支援ができることについても、県内へ広めるために一、ホームページ上での案内の工夫などを行った。</p>
<p>3. がんに関する就労支援について愛媛県内の医療関係者への普及啓発および支援体制を構築する</p>	<p>・上半期は主に、当センターにおける就労支援体制整備と国内での取り組みについての情報収集活動に重点を置いた。下半期は、現状の体制を含めて、愛媛県がん診療連携協議会活動等を通じて、愛媛県内の医療関係者に対する普及活動を行っていくこととする。</p>
<p>4. 愛媛県内のがんサロンの質向上に努める</p>	<p>・おれんじの会のピアサポーター派遣の利用に際し、ピアサポーター自身がサロンを客観的に振り返り、向上していけるために、ピアサポーターが記述できるサロン報告書書式を整えた。今後は、愛媛県内のピアサポーター派遣を受けている施設の質向上のために、活動状況を共通の視点で把握できる共通の報告書とするよう調整を図る予定とする。 ・サロン報告書の共有などを含め、愛媛県内のサロン担当者の情報共有と質向上に向けた課題への取り組みのために、昨年度、愛媛県がん診療連携協議会 緩和ケア・相談支援のあり方に関する委員会内に設立した「サロン担当者の交流・検討会」を2月頃予定することとする。</p>
<p>5. がん患者を家族に持つ子どもの不安や恐怖、緊張を緩和するとともに、家族のコミュニケーションの円滑化を図り、がん患者自身の負担軽減にもつなげることを目的として、がん患者を家族に持つ子どもへの支援を促進させるための企画を行う</p>	<p>・がん医療におけるチャイルドケアに関する医療関係者のための教育プログラムとして、「看護に活かすチャイルドケア」を開催し、実践に役立つとの評価を得た。 ・第2回目となる「夏休みキッズ探検隊」では、愛媛県内への普及啓発の目的から、企画者側のオブザーバとしての医療関係者の受け入れを行った。愛媛県内では、松山赤十字病院のスタッフが2名見学参加した。また、県外からも要望があり、2名見学参加した。</p>
<p>6. 愛媛県がん診療連携協議会他、愛媛県内の関連機関と協力しながら、愛媛県内の医療関係者への普及啓発が必要ながん関連の企画を行う</p>	<p>・『メディカルスタッフのためのカルテの読み方講座』を外部講師を招いて医師会館にて講座を開催した。参加者の対象をメディカルクラークから診療情報管理士、医師、医事まで広げて259人もの参加者があった。 ・その他企画書、報告書参照</p>
<p>7. 愛媛県看護協会等、愛媛県内にすでに実績のある資源等との運動を視野に入れて、愛媛県内のがん看護研修企画について検討する</p>	<p>・日本ホスピス緩和ケア協会が普及活動を行っているELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラムについて、愛媛県がん診療連携協議会の緩和ケア・相談支援のあり方に関する委員会や愛媛県看護協会と相談しながら、下半期に当事業として開催する予定とした。また、愛媛県がん診療連携協議会、愛媛県看護協会、日本ホスピス緩和ケア協会四国支部から後援することとした。</p>
<p>8. 拠点病院・準拠点病院およびがん患者・家族を支援する人々を、患者・家族支援、医療者支援の取り組みを行っている全国的な研修に人材を派遣し、愛媛県内にそのノウハウを還元する</p>	<p>・上半期、助成対象研修は8件であり、研修助成は6名に実施した。</p>
<p>1) 派遣する人材の選定を含め、研修費助成成果を愛媛県内へ効果的に還元するための方法について、戦略的に計画する</p>	<p>・ELNEC-J指導者研修について今年度も1名助成し、その還元として計4名の助成者をえひめELNEC-Jの企画コアメンバーとして運営する体制とした。</p>
<p>9. 愛媛県のがん登録を支援する</p>	

1) 『院内がん登録初級者研修会』を企画し、がん診療拠点病院・がん診療準拠点病院の院内がん登録の質と登録数の向上を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・H25年5月17日 『院内がん登録初級者研修会』にて標準登録様式(国立がん情報センター西本寛)。 ・H25年6月19日 『院内がん登録初級者研修会』にて泌尿器 ・H25年8月31日 『みんなのための五大大がん登録講座-2013』では外部から講師と診療情報管理士を招き、五大大がん登録の基礎を1日で確認。(拠点推進以外の病院も対象とした) ・H25年10月18日 『院内がん登録初級者研修会』にて婦人科
2) 『腫瘍登録票の広報・講習会・出張採録』を行い、非拠点病院・診療所からの腫瘍登録票の数と質の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・H25年7月19日 市民病院と済生会西条の実務者に採録実習を行った。 ・H25年9月20日 十全総合病院の実務者に採録実習を行った。
3) 前記1)、2)により、地域がん登録の精度を向上を目指す。	<p>前年からの努力により、愛媛県のDCNが15%(2011)に下がった。 登録総数は12000弱/年(2011)になった。 一步一步、効果を上げつつあるが、今後関係団体・個人への広報が必要と考える。</p>
4) 院内がん登録、地域がん登録の精度を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・H25年5月13日 市民病院へ訪問調査を行い、がん登録の現状把握と改善に向けた意見交換会を行った。 ・H25年11月6日 済生会西条へ訪問調査を行った。 <p>*調査事項は、院内がん登録に関する組織図、責任者と実務者の配置状況、登録作業場所、登録の流れ、個人情報の管理状況等。</p>
5) 『院内がん登録情報解析研修会』を企画し、院内がん登録情報の利用を促進する	<ul style="list-style-type: none"> ・H25年8月より、がん登録専門部会事務局を設け、がん情報管理室/がん登録支援室活動報告として『院内がん登録情報・解析研修会データ利用報告書』を拠点病院から提出して頂くよう働きかけた。 ・H25年10月から四国がんセンターのHP上でも告知した。 ・H25年4月19日 四国がんセンターにて『院内がん登録』からみえる愛媛のがん診療』というタイトルのもと発表会を行った。愛媛県がん診療連携拠点病院連絡協議会HPおよび関連学会で公開した。
6) 『愛媛県がん情報利用プロジェクト(研究会)』を企画し、地域がん登録・院内がん登録・DPCデータ・がん検診情報・保険情報など様々な情報を統合したがん情報の利用解析の場を作る。	<p>7月27日 『愛媛県がん情報プロジェクト』として、愛媛県のがん情報の統合とその利用を目指した会を行った。成果は、愛媛県がん診療連携拠点病院連絡協議会HPおよび関連学会で公開した。</p>
※ 平成24年度の事業を遂行する中で、平成25年度に追加が必要となった事項	
1. ピアサポーター育成に貢献する	
2. 患者家族を含む一般市民および医療関係者等を対象とするがん関連の企画について企画支援を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・外見関連の展示会などの自施設開催を検討しているところがあり、本事業における企画関連の情報提供および、展示会見学の受け入れを行っている。施設の要望に応じて企画支援を随時実施する予定である。また、企画支援をすることが可能との情報発信を、ホームページ上に明示した。
3. 愛媛県在宅緩和ケア推進モデル事業における連携コーディネーター育成プログラム作成に協力し、患者家族総合支援センター機能における育成プログラム運用の方向性について検討する	<ul style="list-style-type: none"> ・愛媛県在宅緩和ケア推進モデル事業において、質的研究方法を用いながら、連携コーディネーターの役割・機能の明確化作業が行われている。その結果の進捗状況を踏まえ、研修プログラムを下半期に検討することとする。